

祝 日本遺産 (Japan Heritage) 認定



富士見町を含む

「星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—」が、平成30(2018)年5月24日、日本遺産 (Japan Heritage) に認定されました

「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。認定されたストーリーをもとに、文化財を活用した観光振興や地域の活性化をめざして様々な魅力を発信する事業が行われますので、どうぞご期待ください!

●ストーリー概要

日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉱山がある。鉱山の森に足を踏み入れると、そこには縄文人が掘り出したキラキラ耀く黒曜石のカケラが一面に散らばり、星降る里として言い伝えられてきた。日本最古のブランド「黒曜石」は、最高級の矢じりの材料として日本の各地にもたらされた。麓のムラで作られたヒトや森に生きる動物を描いた土器やヴィーナス土偶を見ると、縄文人の高い芸術性に驚かされ、黒曜石や山の幸に恵まれて繁栄した縄文人を身近に感じることができる。

八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン資料館連携事業 共同企画展

ひ ふ み よ 一・二・三・四・縄文ライフ ～縄文人と数～

問 井戸尻考古館 ☎64-2044

富士見町、原村、北杜市の3館で共同開催する企画展示です。

八ヶ岳西南麓に花開いた縄文文化。そのなかから、今回は縄文人が意識した「数」についてご紹介します。各館ごとにテーマを決めて展示を行い、井戸尻考古館では“縄文人が意識した数とその奥に潜む数の意味”について探ります。

【期 間】 7月7日(土)～11月25日(日)

【時 間】 午前9時～午後5時

【会 場】 富士見町井戸尻考古館、八ヶ岳美術館 (原村歴史民俗資料館)、北杜市考古資料館

広告